

自動車リサイクル制度の安定化・効率化に 関する取組みについて (実績及び今後の取組み)

2024年11月14日

公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

本財団の概要



公益財団法人自動車リサイクル促進センター 理事長 細田 衛士

Japan Automobile Recycling Promotion Center（略称：JARC）

設 立	・2000年11月22日 ・2010年 4月 1日 公益財団法人へ移行
目 的	資源の有効な利用の向上及び環境保全に資するため、自動車等のリサイクル及び適正処理の促進に関する事業を行い、自動車等ユーザーの便益の確保及び国民経済の健全な発展を図り、もって国民生活の維持、向上に寄与することを目的とする
国からの指定	2003年6月 自リ法の指定法人に指定 ・資金管理法 ・指定再資源化機関 ・情報管理センター

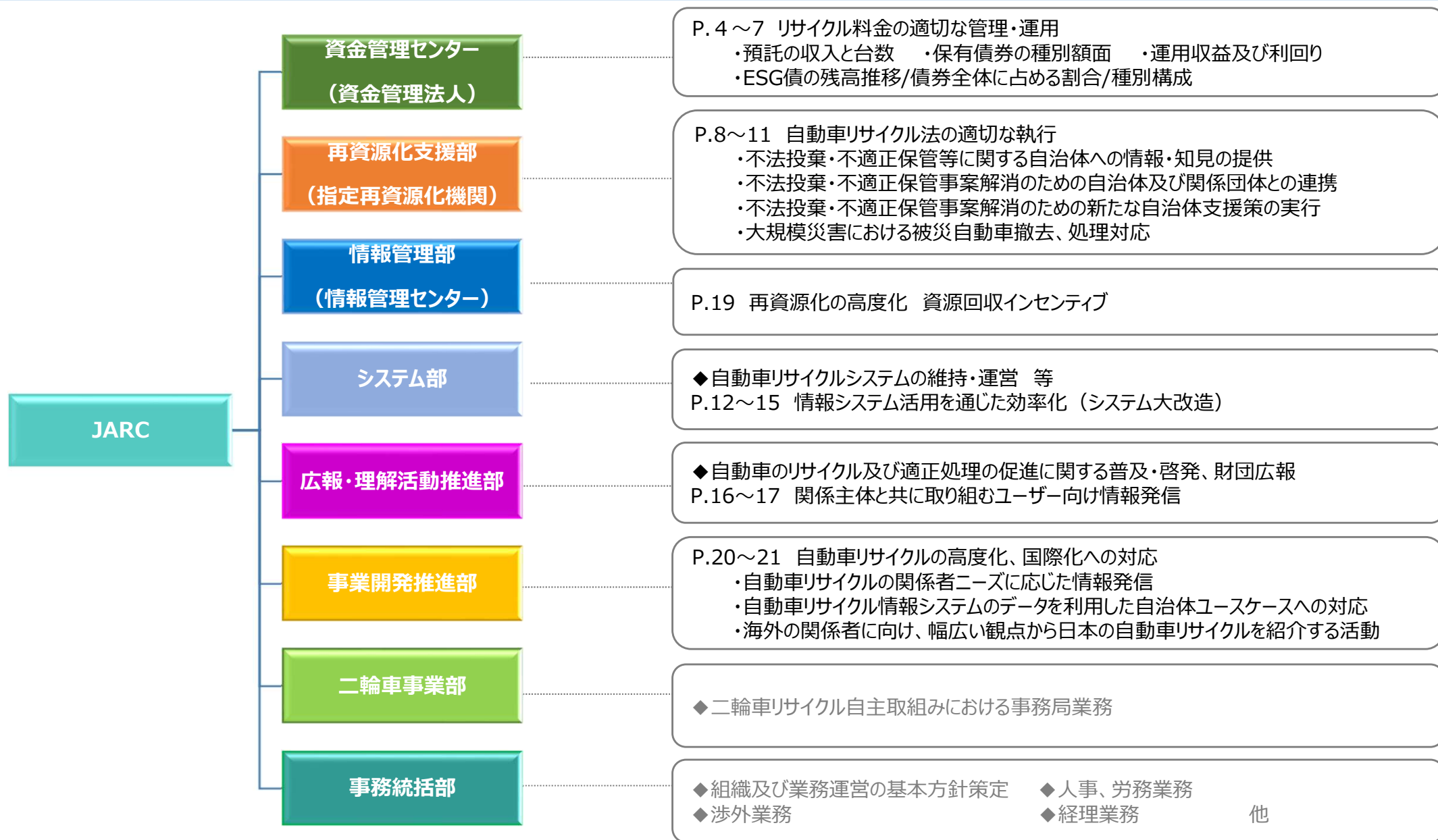
△指定法人の主な業務▽

資金管理法	指定再資源化機関	情報管理センター
● リサイクル料金の収受 ● リサイクル料金の運用 ● リサイクル料金の払渡と返還 ● 特預金の管理、出えん	● 小規模製造・輸入業者車台の再資源化等実施 ● 義務者不存在車等の再資源化等実施 ● 離島対策支援 ● 不法投棄等対策支援	● 電子マニフェストシステムの維持・管理 ● コンタクトセンターの運営・管理



本日の報告内容

「自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書に基づく今後の対応について」関連事項



1. 自動車リサイクル制度の安定化・効率化の取組み

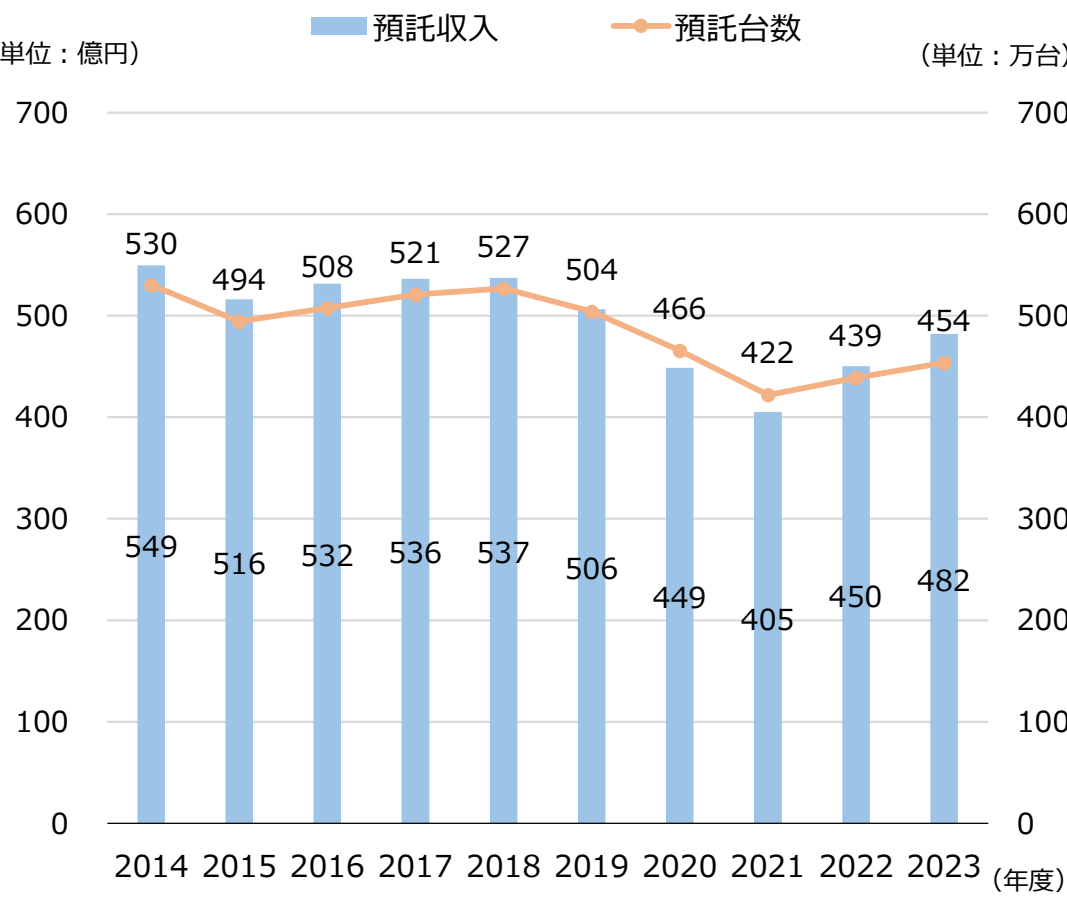
2. 自動車リサイクルの高度化、変化への対応

3. まとめ

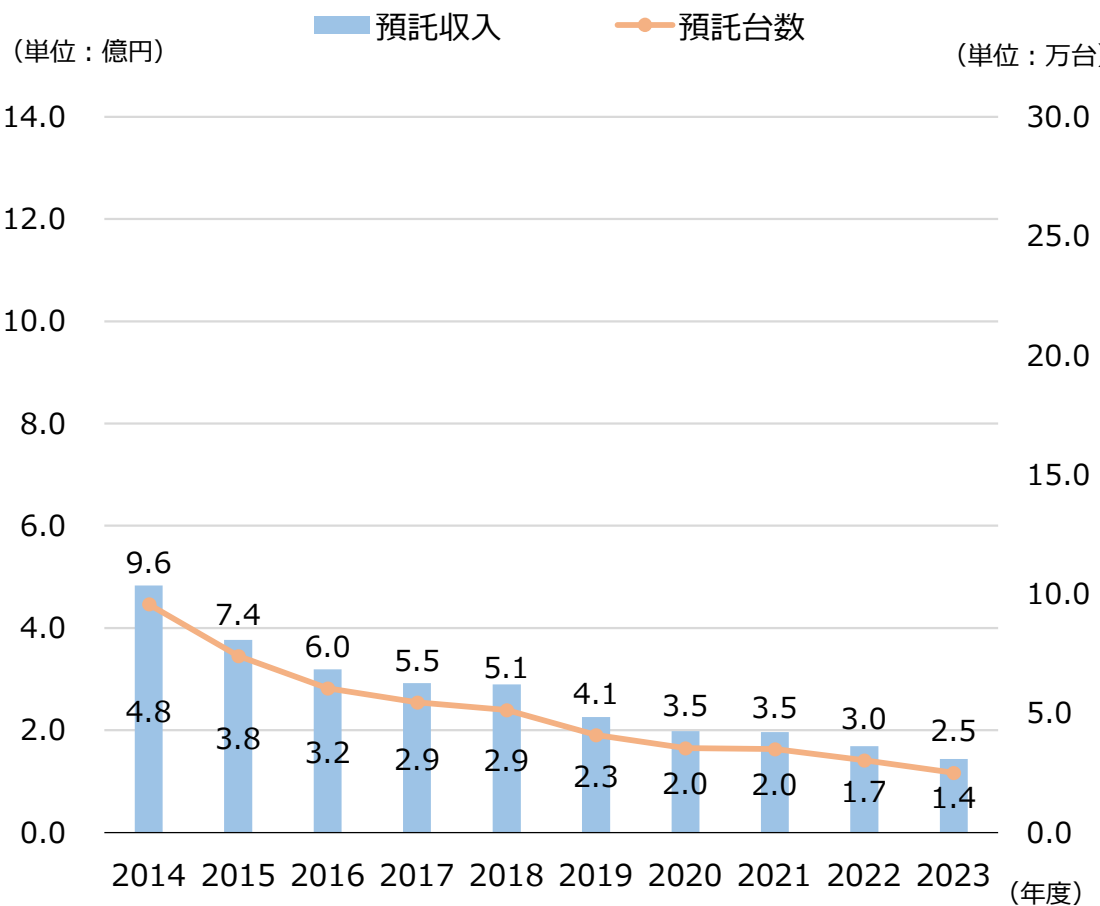
(1) リサイクル料金の適切な管理・運用 ①

2023年度は、一部メーカーの出荷停止による影響があったものの、半導体等部品の供給不足が緩和したことに伴って新車販売台数が増加したことにより、**新車購入時における預託台数は、前年度比103%の454万台となり、預託収入は、前年度比107%の482億円**となった。引取時における預託は引き続き減少傾向にある。

【新車購入時における預託の収入と台数】



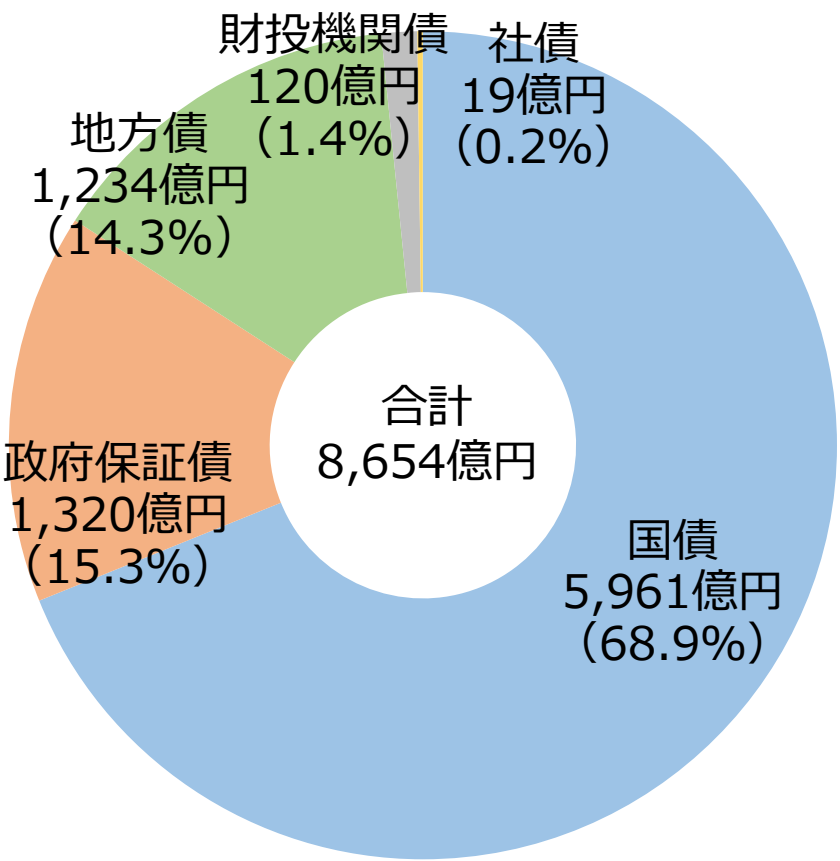
【引取時における預託の収入と台数】



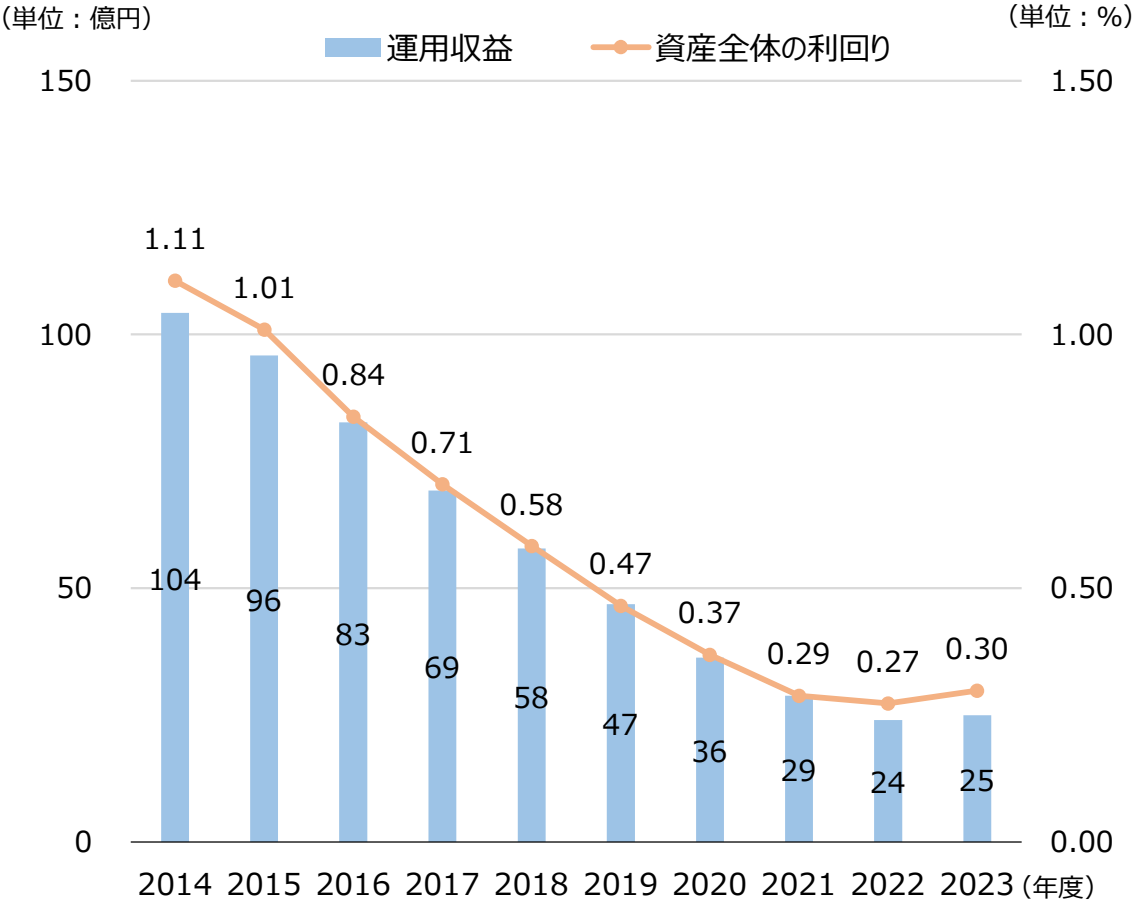
(1) リサイクル料金の適切な管理・運用 ②

2023年度末における保有債券の額面残高は8,654億円となった。運用収益及び資産全体の利回りは、引き続き低水準の状況が継続しているものの、市場金利の上昇に伴って若干であるが改善傾向にある。

【2023年度末における保有債券の種別残高（額面）】



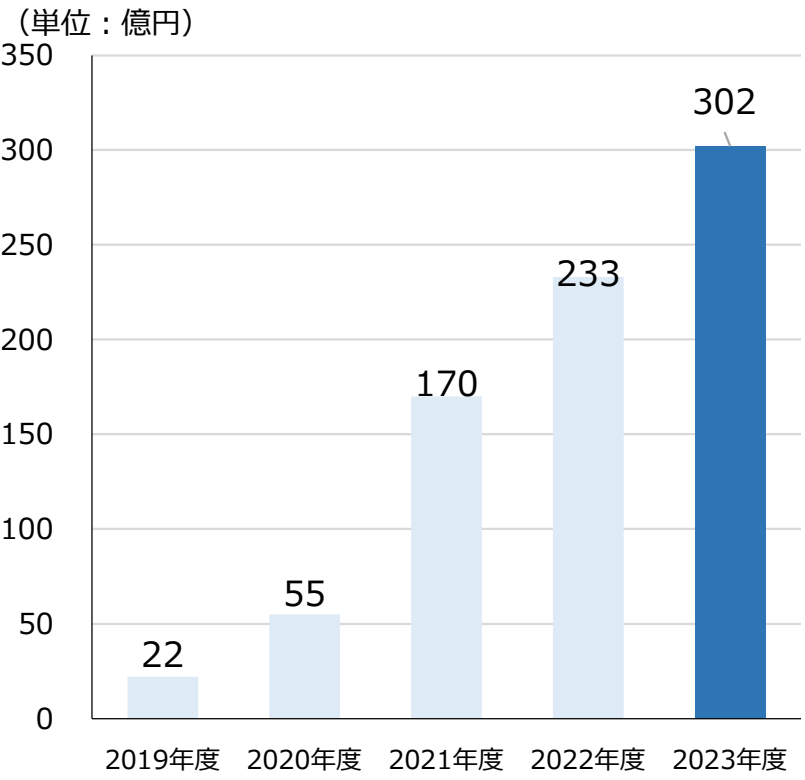
【運用収益及び資産全体の利回りの実績】



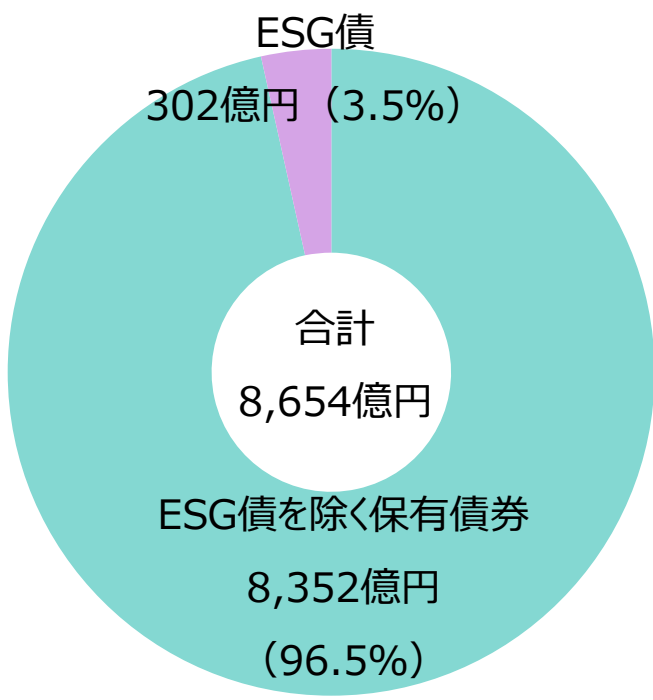
(1) リサイクル料金の適切な管理・運用 ③

環境問題の改善等への寄与を目的に2018年度から取得を開始したESG債の額面残高は302億円となり、保有債券全体（8,654億円）に占める割合は3.5%となった。

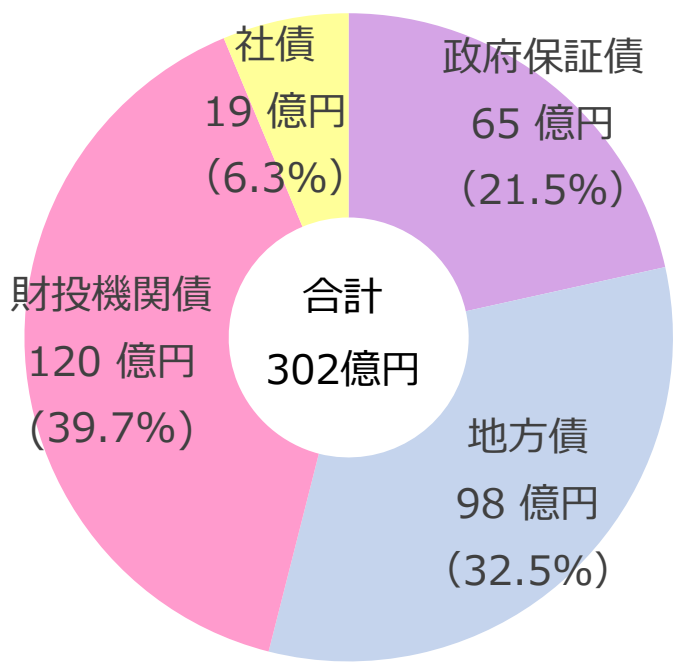
ESG債
額面残高の推移



保有債券全体に占める
ESG債の割合（額面）



ESG債の種別構成（額面）



（１）リサイクル料金の適切な管理・運用：参考

2023年度末における再資源化預託金等のストックは、前年度末から20億円減少して、9,233億円となった。また、そのうち235億円は特預金であり、2023年度においては、離島対策等支援事業や大規模災害への対応、自動車リサイクル情報システムの大改造に対して、特預金の出えん等を行った。

2023年度末時点
再資源化預託金等のストック

預託金残高

9,233億円

特預金残高
235億円

23年度発生：22億円

23年度出えん等：21億円

3物品の
適正処理・リサイクル

事業継続
社会貢献拡大

＜2023年度における出えん等の内容＞

①自動車リサイクル情報システムの大規模改造（システム設計）

➡現行の自動車リサイクル情報システムが稼働して20年目となる2026年を目標に、業務の効率化・高度なセキュリティ対応・情報システム新技術への対応などを目標とする情報システムの大規模改造を実施する。

②離島対策等支援事業

➡離島地域で発生する使用済み自動車の本土への引渡しに掛かる海上輸送費について、自治体に対して資金支援（輸送費の80%）等を行う。

＜海上輸送イメージ＞



③大規模災害への事前対応

➡大規模災害発生時における使用済み自動車の適正処理に対する円滑な対応に向け、手引書・事例集、番号不明被災自動車に関する推計結果等を用いた自治体に対する説明会及び研修会の開催。

(2) 自動車リサイクル法の適切な執行 ①

- 1) 不法投棄・不適正保管等に関する自治体への情報・知見の提供
- ▶ 基礎知識研修とステップアップ現場研修を共催者である国及び自再協と連携して実施。

▶ 令和6年度から基礎知識研修はeラーニング方式とし常時動画で視聴できる仕組みに変更、現場研修は年4回の定例開催に加え、自治体単独での開催を追加し自治体固有の課題に対応する。

【基礎知識研修（eラーニング方式）による主な映像内容、視聴時間】

担当	分類	映像見出し	映像時間
経済産業省 環境省	自動車リサイクル法の概要施行状況	1. 自動車リサイクル法の概要 2. 自治体における業務の概要 3. 自動車リサイクル法施行状況	5 1 分
JARC	自動車リサイクル法のセーフティーネット	1. 不法投棄等への対応 2. 大規模災害時の対応	3 3 分
	自動車リサイクルシステムと実務について	1. 自動車リサイクルシステム 2. 遅延報告への対応 3. 登録・許可に関する対応 4. フロン類年次報告への対応	7 0 分
自動車再資源化協力機構	フロン類・エアバッグ類適正処理	1. 自動車再資源化協力機構 2. 引取工程の適正業務 3. フロン、エアバッグ類適正処理	4 9 分

【ステップアップ現場研修 定例開催実施結果】

年 度	基礎知識研修受講者数	現場研修受講者数
2021年度	397名	オンラインで代替策実施(コロナ禍)
2022年度	458名	66名
2023年度	420名	72名
2024年度	411名	81名
実施月	6月	7月
開催県	岡山県、兵庫県	三重県、茨城県

現場研修に国から自治体への研修項目『立入検査のチェック項目』を追加



【ステップアップ現場研修 自治体単独開催実施結果】

年 月	実施自治体	受講者数
2024年8月	千葉県 (本庁、6事務所)	12名

・個別開催により自治体の複数担当者との双方向でのコミュニケーションと自治体固有の課題解決ができる



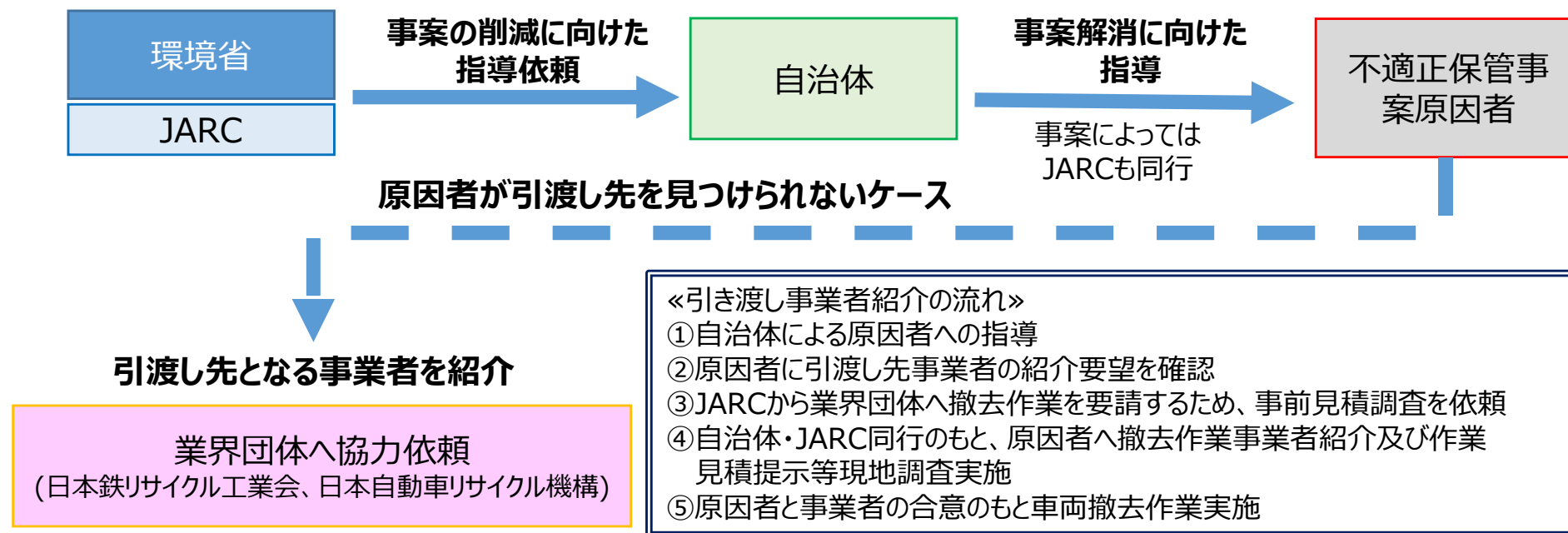
〔基礎知識研修受講⇒現場研修申込受講の流れ〕



(2) 自動車リサイクル法の適切な執行 ②

2) 不法投棄・不適正保管事案解消のための自治体及び関係団体との連携

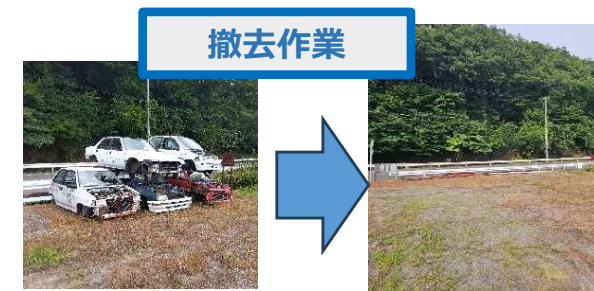
- ▶ 国による「不法投棄・不適正保管対策に関する試行的財政支援拡充事業：モデル事業」への協力で得られた知見を他の自治体に情報展開するとともに、解体・破砕業者と協力・連携し現場立ち入り等 早期撤去を促すスキームを構築することにより、事案の解決に継続して貢献する。



【取り組み状況】

- ◆ 不適正保管台数50台以上の事案をターゲットとし、当該事案を管轄する自治体に対して情報共有を行い、事業者指導や自治体等が行う現場立入り時にJARCも同行、上記スキームを紹介する等事案解決に貢献。

- ・2023年度では 5自治体160台の撤去処理が完了。
- ・2024年度後半で継続案件である残台数(約300台)の撤去処理を推進していく。



(2) 自動車リサイクル法の適切な執行 ③

3) 不法投棄・不適正保管事案解消のための新たな自治体支援策の実行

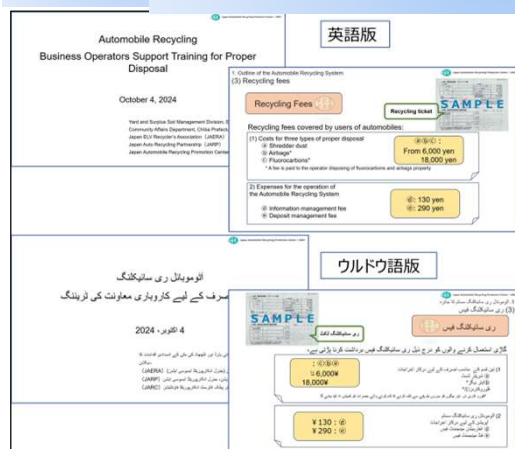
▶ 審議会報告書の課題を踏まえ、事業者の適正化に資する 多言語でのサポート研修を実施。

理解度テスト合格を
もって事業者適正化
サポート研修修了

- ・新規許可申請中の外国人事業者を対象に自り制度理解の上で事業の適正化を図る目的で、研修会を開催(自治体が開催を案内、JARCが研修を実施)。
- ・カリキュラムは法制度概要や許可要件、解体実務作業実演、リサイクルシステム操作及び適正な手順等を受講者に合わせた言語のテキストと通訳者を用意し実施

多言語
テキスト

現在 英語 ウルドウ語、
ペルシア語、シンハラ語



実務：フロン、エアバッグ処理作業



座学：法概要、設置要件講義



【事業者適正化サポート研修 実施結果】

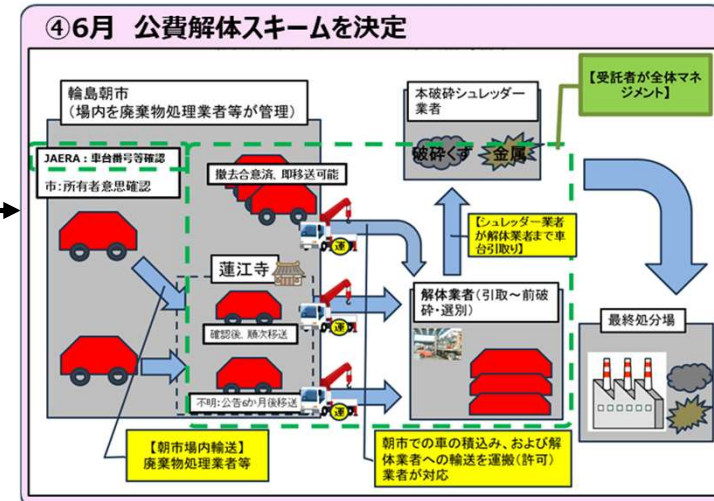
	開催日	開催事業者	受講者数	対象言語
2023年度	2024年3月26日	京葉自動車工業(株) (千葉市)	6社 8名	英語、ウルドウ語、 シンハラ語
2024年度	2024年7月2日	京葉自動車工業(株) (千葉市)	7社 11名	英語、ペルシア語
	2024年10月4日	京葉自動車工業(株) (千葉市)	6社 9名	英語、ペルシア語、 中国語
	12月～2月予定	未定		

23年度千葉県でトライアル開催し、24年度から研修を軌道に乗せ
10月千葉県で現在 3 回実施。(3か月毎開催)
今後、他県(外国人業者の多い自治体)にも本研修の展開を行い、
開催に向けて連携を進めていく。

(2) 自動車リサイクル法の適切な執行 ④

4) 大規模災害における被災自動車撤去、処理対応

- ▶ 令和6年能登半島地震からの復興に向け、国の「災害廃棄物対策指針」に定められた自治体における被災自動車撤去・処理に関して自動車リサイクル法に則した対応要領や知見を提供し、円滑な対応につなげている。



被災車所有者から問合せの為、**処理手順案内チラシ**を作成、石川県、能登半島6市町村に展開

朝市の焼損車は資源価値喪失の為、現地調査の上、**処理方法を環境省、輪島市と協議。**

環境省、輪島市、JARC、リサイクル機構による**焼損車処理プロジェクト**始動。**車台番号確認作業**を実施。

環境省、輪島市、JAERAと朝市地区の焼損車81台限定に公費による撤去、処理解体スキームを構築。



隣接した被災寺院地内の瓦礫を**整地し敷鉄板後、一時保管場所設置(約1200㎡)**

- 能登半島地震の被災自動車撤去処理の完遂並びに9月豪雨土砂災害の被災自動車処理支援を、国、自治体、事業者と連携して**実施**する。
- 被災車両の処理の経験が今後の災害処理の知見となる為、講じたノウハウ等を「手引書・事例集」へ掲載し、今後の自治体災害対策研修会に**反映**させていく。

(4) 情報システム活用を通じた効率化（システム大改造） ①

- ▶ 2026年1月稼働を目標に、自動車リサイクルシステムの大規模改造プロジェクトを推進中。
- ▶ 2024年上期までに設計工程～プログラム開発工程を計画どおり完了。2024年下期よりシステム機能テストを開始するとともに、利用者（事業者・義務者・自治体等）に対する周知活動・マニュアル策定を行う。

1) 背景・目的

自動車リサイクル情報システム（自リシステム）は運用開始から約15年間経過し、陳腐化、複雑化、拡張性の限界等の課題が内在している。2026年1月を目標に、業務・システム全体の抜本的見直し（大改造）を実施する。

2) 主要検討課題

システム大改造後の新システムのあるべき姿を描出するうえで考慮・検討すべき、主要な課題を以下のとおり定義した。

① 業務効率性の向上

現行システムでは、紙帳票の回覧・手入力等、非効率な業務が存在。システム利用者の業務の効率化を図ることが必要（ペーパーレス推進等）

② 新技術への対応とコストの抑制

現行システムは長期運用に伴う技術の陳腐化・肥大化などの課題が内在しており、セキュリティ対策の強化と併せ、今後も長期に利用できるシステム構造としていくことが必要

③ 将来のリサイクル環境変化を見据えた拡張性の担保

今後リサイクルを取り巻く外部環境が大きく変化していく中で、自動車リサイクルの高度化に資する拡張性のあるシステム基盤とすることが必要

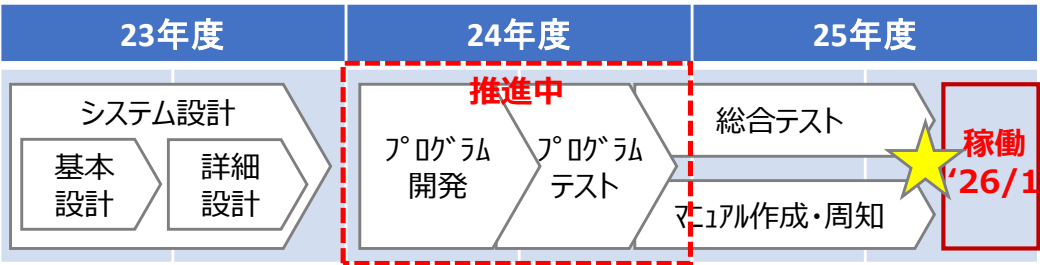
3) 活動状況

大きなトラブルもなく、計画どおりに推進している。

- ① アプリ開発
 - ・ 資金管理、情報管理等の個別プログラム開発を一通り完了。
 - ・ 個別プログラムの動作確認を行う単体テストを順次実施中。
- ② インフラ整備
 - ・ 開発環境及びテスト環境の構築完了。
 - ・ 外接先とのネットワーク接続テスト計画を策定中。
- ③ 結合テスト
 - ・ システム横断的なテスト実施に向けたテストシナリオを作成中。

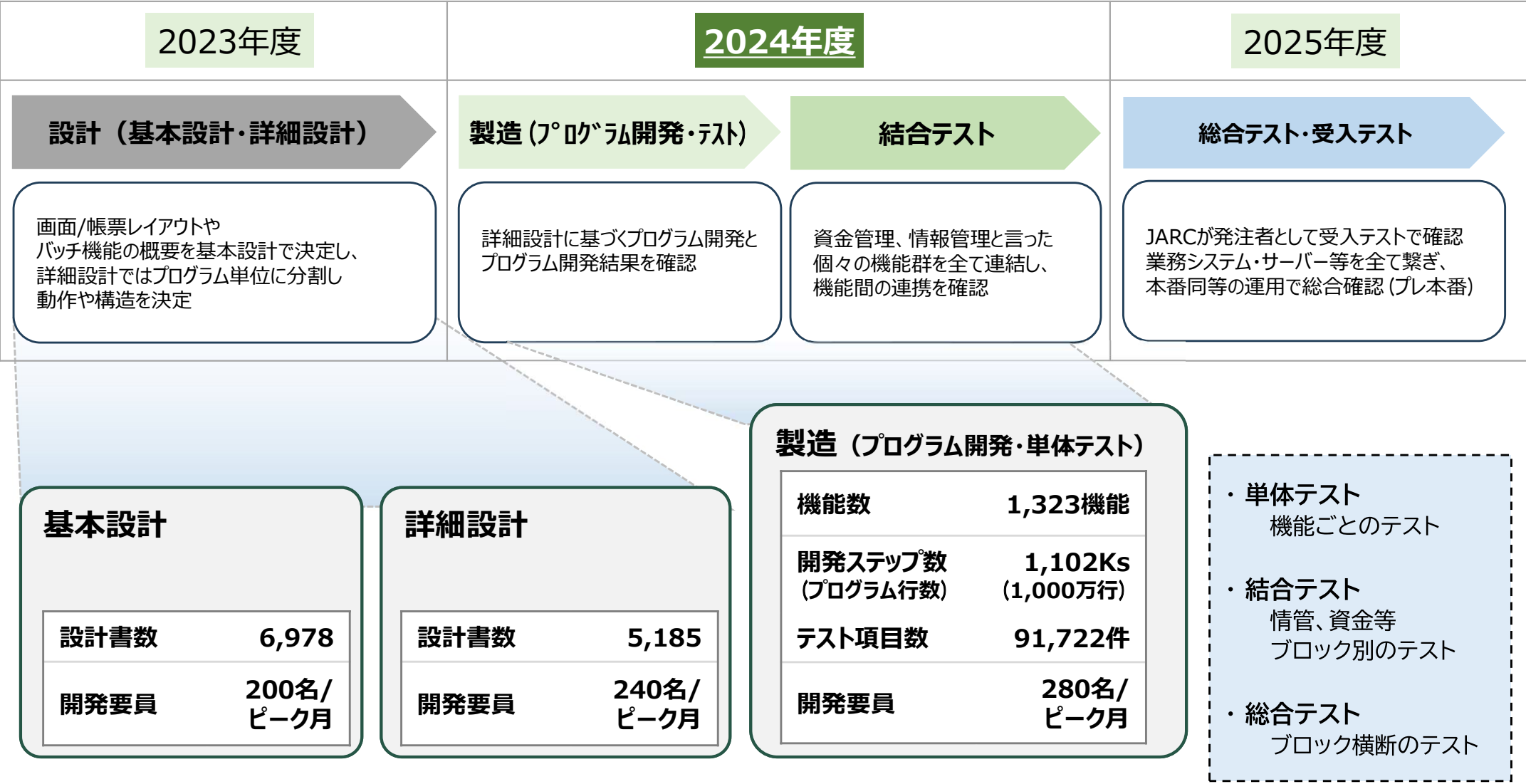
4) 中長期スケジュール

2026年1月の新システム稼働を目標に、2023年度から2025年度にかけてプログラムの開発及びテストを進めている。また、事業者向けマニュアルの作成と周知計画も並行して検討を開始している。



(4) 情報システム活用を通じた効率化 (システム大改造) ②

▶ 現時点計画通りシステム基本、詳細設計とプログラム開発と単体テストを完了し、結合テストに移行している。



(4) 情報システム活用を通じた効率化 (システム大改造) ③

▶ 事業者からの意見集約、実操作によるフィードバックに基づき、入力しやすいシステム (効率向上) としている。

基本方針

1. エコを喚起させる親しみやすいデザイン
2. 「今」必要な機能にアクセスしやすい画面

3. ユーザー視点で操作に迷わないインターフェイス
4. マルチデバイス/レスポンスデザインに対応

① PCのみ使用可

旧画面

自動車リサイクルシステム

2024/10/28 15:50

引取工程 > 使用済自動車の引取報告 > 情報管理センターへの報告 (JPRS1100)

JXXM1149E 業が停止されているため、引取りができません。

戻る ログアウト P 画面印刷 ? ヘルプ

1. 引取実施事業者 (自社) 情報

2. 引取 → フロン → 解体 → 破碎

別画面の為、毎回ログオフ、再度ログイン要

(注) フロン類「無」は自り法対象外冷媒も含まれます

4. 最終所有者情報 ※最終所有者名は、必ず入力してください。

最終所有者名 ー過去の入力履歴から選択ー 選択やり直し 履歴のクリア

※同一の最終所有者が多い場合、この機能を使うと便利です。

最終所有者名 住所 郵便番号 住所補出 半角の数字で入力してください (例: 1234567) 電話番号

5. 備考情報

◆備考 (当該工程用)

◆引取工程

③ 入力・画面遷移多数、全桁入力要

① PC・iPhone・タブレット使用可

新画面

自動車リサイクルシステム

日立太郎 株式会社〇〇〇〇〇

事業所コード: 999999
ステータス: 〇〇〇〇〇〇
登録満了日: yyyy/mm/dd

ログアウト

ポータル > 移動報告

引取工程 フロン類回収 解体工程 破碎工程

引取車両検査 引取報告 引渡報告 アラート

1. 装備・預託確認 2. 最終所有者

引取報告 報告日 車台番号 登録車両

検索 検索 検索

② 引取 → フロン → 解体 → 破碎
同一画面、1回のログインで全工程遷移可

引取報告	報告日	車台番号	登録車両	車種	登録自動車	AA111	HFC	所有一部	200-0001	神奈川県横浜市西区	090-1234-0001
☒	2021/06/07	AA111-01-0101	品川 300 あ 1001	JARC1800GT ト3加う	登録自動車	AA111	HFC	所有一部	200-0001	神奈川県横浜市西区	090-1234-0001
☐		AA111-01-0101	品川 300 あ 1001	JARC1800GT ト3加う	登録自動車	AA111	HFC	所有一部	200-0001	神奈川県横浜市西区	090-1234-0001
☒	2021/06/07	AA111-01-0101	品川 300 あ 1001	JARC1800GT ト3加う	登録自動車	AA111	HFC	所有一部	200-0001	神奈川県横浜市西区	090-1234-0001
☐		AA111-01-0101	品川 300 あ 1001	JARC1800GT ト3加う	登録自動車	AA111	HFC	所有一部	200-0001	神奈川県横浜市西区	090-1234-0001
☐		AA111-01-0101	品川 300 あ 1001	JARC1800GT ト3加う	登録自動車	AA111	HFC	所有一部	200-0001	神奈川県横浜市西区	090-1234-0001
☐		AA111-01-0101	品川 300 あ 1001	JARC1800GT ト3加う	登録自動車	AA111	HFC	所有一部	200-0001	神奈川県横浜市西区	090-1234-0001
☐		AA111-01-0101	品川 300 あ 1001	JARC1800GT ト3加う	登録自動車	AA111	HFC	所有一部	200-0001	神奈川県横浜市西区	090-1234-0001
☐		AA111-01-0101	品川 300 あ 1001	JARC1800GT ト3加う	登録自動車	AA111	HFC	所有一部	200-0001	神奈川県横浜市西区	090-1234-0001
☐		AA111-01-0101	品川 300 あ 1001	JARC1800GT ト3加う	登録自動車	AA111	HFC	所有一部	200-0001	神奈川県横浜市西区	090-1234-0001
☐		AA111-01-0101	品川 300 あ 1001	JARC1800GT ト3加う	登録自動車	AA111	HFC	所有一部	200-0001	神奈川県横浜市西区	090-1234-0001

③ 画面統廃合、プルダウンで選択可

(4) 情報システム活用を通じた効率化 (システム大改造) ④

▶ 多くのシステム利用対象者に対し、システム改造の案内や利用方法のガイダンスに取り組んでいる。

- 新システムへのスムーズな移行にシステム改造の周知活動が非常に重要と捉え、以下の取組を進めている。

【周知】
大改造を行うこと・その影響等を
ユーザー・関係者に伝達する

【研修】
外部ユーザーがシステムを
使いこなせるようにする

【対応体制】
想定される問合せに対応する
体制を整備する

- 2024年度は計画策定～先行周知までを行い、コールセンター問合せ等も意識した体制整備・準備を行う。

対象者		対象者数	オンライン説明会	説明動画	操作動画	マニュアル提供	コールセンター
メーカー・インポーター		49 社	●	●		●	JARCにて
リサイクル事業者	引取業者	39,388 事業所		●	●	●	●
	フロン類回収業者	11,611 事業所		●	●	●	●
	解体業者	4,915 事業所		●	●	●	●
	破砕業者	1,201 事業所		●	●	●	●
WebAPI利用ユーザ (事業者向け)			●			●	●
指定引取場所		171 箇所		●		●	●
並行輸入業者				●		●	●
中古車輸出返還申請業者				●		●	●
自治体		134 自治体		●		●	JARCにて
一般ユーザ						●	●

(5) 関係主体と共に取り組むユーザー向け情報発信 ①

- ▶ 「自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書(21年7月)」(6) 普及啓発では、「関係主体において、幅広い観点から自動車所有者の理解を促進するため、制度の透明性を高め、一層の情報発信を行うべきである」と示されている。
- ▶ この提言を受けJARCは、**自動車リサイクル制度における指定法人の役割を踏まえ**、関係主体間の連携を促進しつつ、**幅広い観点からユーザーの理解の促進に取り組んでいる**。

全国地域イベント(10カ所)



大学生向け見学会(5カ所)



小学生向け作品コンクール(応募 160団体 / 7,774作品)

ポスターの部 最優秀賞



標語の部 最優秀賞

**リサイクル
つながれ広がれ
車のリレー**

小学生向け見学会(5カ所)



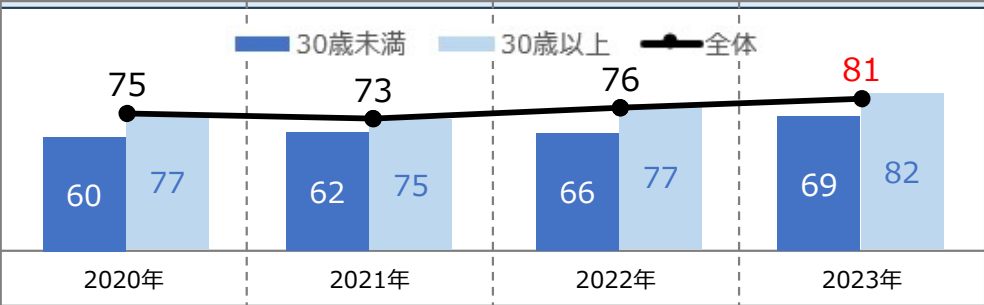
小学生新聞掲載(144万部)



(5) 関係主体と共に取り組むユーザー向け情報発信 ②

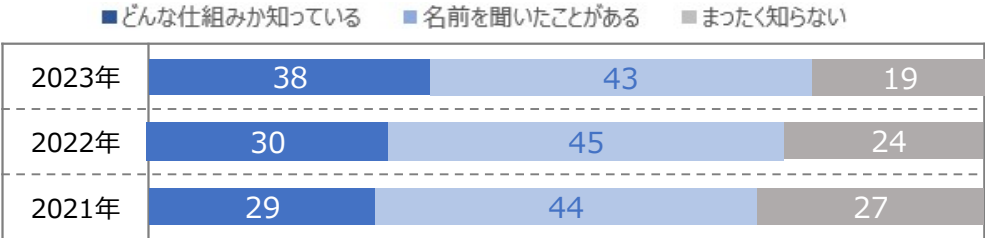
- ▶ ユーザーの認知度は全体で81%。小学生、若年層向け施策に力点を置いて取組みを継続した結果、30歳未満の認知が向上。 *ユーザー認知度・・・全国で調査時点から3か月以内の自動車購入者を対象とし自動車リサイクル法の認知度を調査
- ▶ 引き続き、幅広い観点から自動車所有者の理解を促進するため、運転免許センター・試験場や高速道路サービスエリアなどのメディアを組み合わせ一層の情報発信に取り組む。

ユーザー認知度推移 (単位・%)



制度の理解 (設問回答より) (単位・%)

(設問) あなたは、2005年から施行された「自動車リサイクル制度」をご存知ですか。



運転免許センター・試験場の活用

エリア	運転免許センター等
群馬県	群馬県総合交通センター
愛知県	東三河運転免許センター
富山県	富山県運転教育センター
福岡県	福岡自動車運転免許試験場
三重県	三重県運転免許センター
熊本県	熊本県運転免許センター
広島県	広島県運転免許センター
北海道	札幌運転免許試験場
愛媛県	愛媛県運転免許センター
宮城県	宮城県運転免許センター



高速道路サービスエリアの活用

デジタルサイネージ (電子掲示板) にて動画配信



1. 自動車リサイクル制度の安定化・効率化の取組み

2. 自動車リサイクルの高度化、変化への対応

3. まとめ

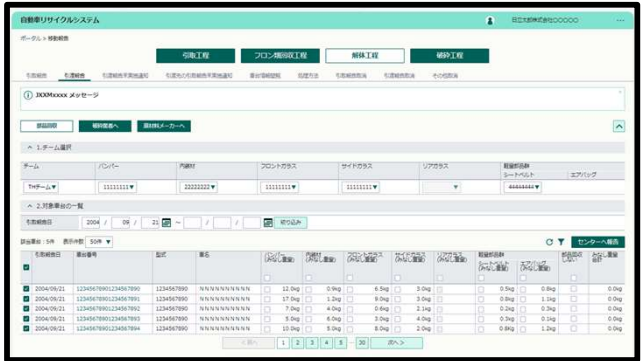
2. 自動車リサイクルの高度化、変化への対応

(1) 再資源化の高度化 資源回収インセンティブ

- ▶ 23年度は、国・義務者・ASRチーム・団体・事務局にて運用イメージを固め、JARCは制度に係る詳細な業務フロー等を整理し、自動車リサイクルシステムへの機能追加に係る基本設計、開発を完了した。
- ▶ 24年度は、制度周知を図るべく、6月に特設WEBサイトを開設し、制作した制度概要説明動画の配信を開始
- ▶ 関連団体等と連携を図り、資源回収を実施している事業者施設を訪問し、設備の確認、情報交換を実施中

【リサイクルシステム機能追加画面例
：解体工程での資源回収】

全体スケジュール	年度						
	2019～2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
マイルストーン	ガイドライン中間取りまとめ ▼2022/3			ガイドライン最終取りまとめ 大改造システム稼働 ▼2024/11 ▼2026/1			
スケジュール	調査WGの立ち上げ	制度の基本方針運用イメージの議論	実証事業（J-FAR）	チームによる検証審査方法等	事業計画：制度参画検討/提案	テスト	コンソ登録
			制度説明等	システム構築			



【制度特設サイト開設】

2023～2024	2023年度		2024年度				2025年度
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
全体	合同会議 7回WG8回WG ▼▼▼		9回WG ▼	特設サイトの設置 ▼6末→	合同会議 11回 ▼11	ガイドライン最終取りまとめ公表	募集要項公表 ▼4
スケジュール	情報共有	制度説明	制度説明	制度説明	制度説明	制度説明	制度説明
	ヒアリング（団体・事業者）	制度周知（解体・破碎）	制度周知（事業者、自治体、その他関係者向け）	制度周知（事業者、自治体、その他関係者向け）	制度周知（事業者、自治体、その他関係者向け）	制度周知（事業者、自治体、その他関係者向け）	制度周知（事業者、自治体、その他関係者向け）
	ASRチームによる基準・手続き等の整理		書類および現地審査方法等の検証	実証事業（J-FAR）			



(2) 自動車リサイクルの高度化、国際化への対応 ①

- 1) 合同会議報告書の提言に基づく自動車リサイクルの関係者のニーズに応じた情報発信
- 2) 自動車リサイクル情報システムのデータを活用した自治体ユースケースへの対応
- 3) 海外の関係者に向け、幅広い観点から日本の自動車リサイクルを紹介する活動

1) 自動車リサイクルの関係者のニーズに応じた情報発信

1)-1: 2023年度 自動車リサイクル会議の結果概要

- テーマ: 循環型社会実現への道 自動車リサイクルはどう貢献するか
- 日時: 2023年12月13日13時から17時
- 参加者数: 491名
- プログラム:
 - ・我が国自動車リサイクルの目指すべき姿
 - ・新EU使用済み自動車規則案の背景と概要
 - ・循環経済の一翼を担う解体業の事例
 - ・使用済み自動車のリサイクルにおける二次資源の高度化



※開催結果: <https://www.jarc.or.jp/datasurvey202312reult/>

1)-2: アンケートから得られた関係者のニーズへの対応

自動車リサイクル会議アンケート
による参加者のニーズ

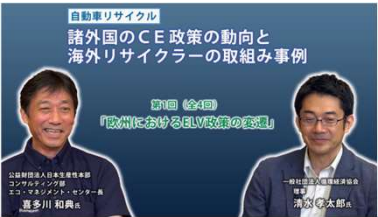
- ▶ 諸外国の資源循環政策動向
- ▶ 諸外国の樹脂リサイクルの取組事例
- ▶ 国内再生樹脂循環に向けた取組事例
- ▶ 樹脂素材メーカーのリサイクル材活用の取組

2024年度の情報発信計画

- ウェブページSNS配信
(2024年8月から実施中)
- 自動車リサイクル会議
(2024年12月実施予定)
- ニュースレター (メール)
(2024年7月から実施中)
- 現場勉強会
(2025年3月実施予定)

1)-3: 2024年度の取組み事例

諸外国のCE政策動向と海外リサイクラーの取組み事例を紹介



第1回	欧州におけるELV政策の変遷
第2回	新しいELV規制への改正案ポイント
第3回	ELV規則法案の要件に関わる争点
第4回	今後の展開と我が国自動車リサイクルへの示唆

解説動画: <https://www.jarc.or.jp/commentary/>

自動車リサイクル会議での情報発信・共有

- テーマ: 循環型社会実現への道 再生樹脂の循環をどう実現するか
- 日時: 2024年12月5日 (木) 13時から17時
- 講演者 (仮題)
 - ・梅田 靖氏: サーキュラーエコノミーの動向と再生樹脂の循環に向けた製品ライフサイクル設計
 - ・嶋村 高士氏: 再生材活用促進に向けた自工会の取組みについて
 - ・栗生木 千佳氏: プラスチックの循環を取り巻く国際的な政策動向
 - ・鈴木 寛氏: 樹脂・ガラスの広域回収・高度処理の取組み事例
 - ・安藤 太郎氏: 素材メーカーが取り扱う再生樹脂

【詳細はこちら】



他業種の樹脂リサイクルの取組み事例を紹介

自動車リサイクルにおける再生資源の循環促進に向けて、家電リサイクルにおける樹脂の循環型サプライチェーン構築・取組み事例を取材・配信 (3回配信)。
(第1回目)
<https://m4-v2.mgzn.jp/sys/rd.php?m=t10VZIP5qYe7I8Fmt>
(第2回目)
<https://m4-v2.mgzn.jp/sys/rd.php?m=l10VZIP5qYe7pYl2l>

2. 自動車リサイクルの高度化、変化への対応

(2) 自動車リサイクルの高度化、国際化への対応 ②

有識者からの寄稿を発信・共有

2024年4月から9月の6か月間、自動車由来の資源循環に関連する国内外の動向を広く共有するため、有識者や産業界からの寄稿を3回発信・共有。

【第7回】サーキュラーエコノミーとLiB リサイクル— 産業界の視点

(トヨタ自動車株式会社 酒井 ゆう子氏)

【第8回】車載用電池リユースへの取り組みの現状と展望

(早稲田大学 小野田 弘士氏)

【第9回】自動車業界において再生樹脂を循環させるための課題と展望

(福岡大学 八尾 滋氏)

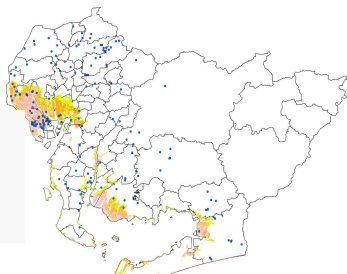
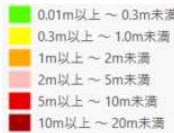
2) 自動車リサイクル情報システムの管理データを利用した自治体ユースケースへの対応

大規模な自然災害発生リスクに備える自治体ユースケース

被災自動車の円滑な処理の為、地域における自動車保有台数、使用済自動車の発生状況等を地域のハザードマップにマッピングし、自治体の災害対応に活用する。

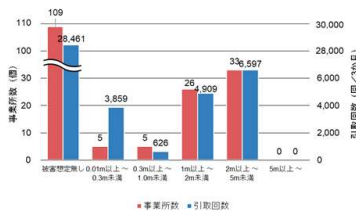
津波災害警戒区域 × 事業所数

- 以下の地域の解体事業者に影響
 - **地方**地域：***か所
 - **地方**地域：***か所
 - **地方**地域：***か所



津波災害警戒区域 × 影響具合

- 影響する解体事業者数・引取報告回数
 - 被害想定無し：***か所、**回
 - 0.01m以上~0.3m未満：***か所、**回
 - 0.3m以上~1.0m未満：***か所、**回
 - 1m以上~2m未満：***か所、**回



3) 海外関係者に日本の自動車リサイクルを紹介する活動

■ タイ国

23年度はJICA「タイ国における自動車リサイクル制度検討」に協力。24年度は、JICAによる「タイ国のELVの適正管理に向けた制度構築プロジェクト」に協力するため日本の自動車リサイクル制度、情報管理システムの説明資料を準備中。

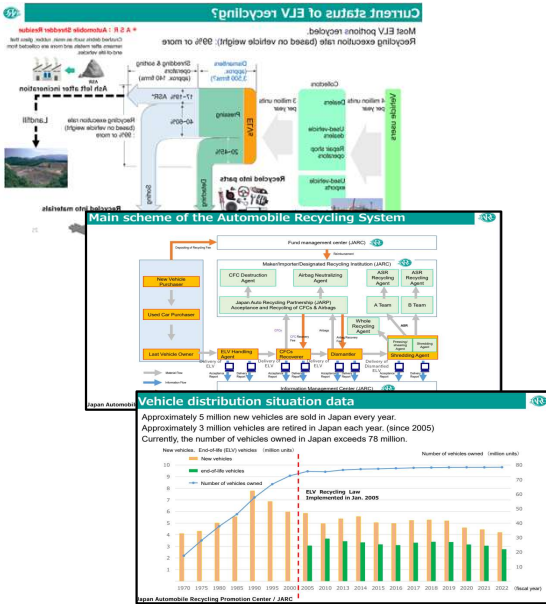
■ ベトナム、フィリピン、マレーシア他

23年度 公的機関 学術機関の要請に基づき、ベトナム・フィリピン関係者に向けた日本の自動車リサイクル制度発足の背景、安定運用の課題と対応を提供。24年度はマレーシア関係者に向けて日本の自動車リサイクル制度を紹介する活動を3回実施。

活動の情景 (一例)



紹介資料イメージ



1. 自動車リサイクル制度の安定化・効率化の取組み

2. 自動車リサイクルの高度化、変化への対応

3. まとめ

3. まとめ

- 本財団は自動車リサイクル制度における国の指定法人として、これまでの活動で積み上げてきた経験を活かしながら、自動車ユーザーと自動車産業界が一体となった取組みに支えられ、自動車リサイクルシステムの安定運用に努めてきた。
- 本報告「自動車リサイクル制度の安定化・効率化に関する取組みについて」では、指定法人業務を中心に本財団が取組み主体となっている検討事項について、進捗状況等を取りまとめた。
- 本財団は、今後も定常指定法人業務の安定運用はもちろんのこと、2026年1月稼働が予定されているシステム大改造、資源回収インセンティブ制度の事務局運営、国際化への対応等、自動車リサイクル制度の中心的役割を担う立場として、様々な事業に取り組んでいく。

以 上

